

地域連携セミナー パネルディスカッション

- 上原：田んぼは魚のエサが豊富。天敵も少ない。琵琶湖総合開発による圃場整備により、魚が湖と水田を行き来できなくなった。県のゆりかご水田プロジェクトで階段状の魚道を作り、魚が田んぼに戻って来られるようにした。耳石の同位体分析により、ニゴロブナが生まれた田んぼに帰ってきて産卵することが科学的に証明された。
この研究成果をゆりかご水田の振興にどう生かしていくか？
- 脇田：ゆりかご水田には、漁業、農業、集落（合意形成）、農政、流通、消費者、教育、食育、世界農業遺産など、さまざまな主体がかかわる。それぞれの〈歯車〉をうまくかみあわせて回していくには、どうすればいいか。
- 戸田：漁業を営んで 35 年。ゆりかご水田、稲作文化からみると害魚もいるが、深く長く田んぼと魚が付き合ってきた証し。びわ湖バレイから見ると野洲川兩岸は一面田んぼ。この先も魚に使わせてあげてほしい。下之郷遺跡（弥生時代、2 千年前）からゲンゴロウブナの骨が出土。今朝の漁でも捕れた。田んぼとびわ湖は水でつながっていることを感じてほしい。びわ湖に漁のにぎわいを再び。
- 大久保：農業が近代化したことによってマイナス面が出てきた。農業用水と排水を分離したことにより、濁り水が発生。アユが

沿岸に近づけない。県は環境こだわり農業を推進。冬季湛水で生物にやさしい湿地を設ける工夫も。

- 堀：ゆりかご水田に取り組んで11年。田植え体験、観察会、稲刈り体験、無農薬栽培。毎回人気。東京で毎年PR活動。6次産業化、ゆりかご水田米で純米吟醸酒。農家、こども、生きもの、びわ湖、地域の〈五方によし〉をめざす。農業と経済の持続可能な両立を。SDGsの達成に貢献。買うエコ大賞開催中。
- 大塚：生協連には地域生協、大学生協、医療生協、職域生協など11生協が加盟。環境は特に意識。滋賀の美しい自然を守りたい。いち消費者、生活者、県民として、専門家と交流することにより学びを深めていきたい。
- 中村大輔：草津の小学生クラブ「アイキッズ」の話。ゆりかご水田のオーナー。地域に愛着・誇りをもつこと大事。「うみのこ」環境学習。きれいなびわ湖で何をしたいですか？子どもに問いかける。びわ湖の魚を料理体験。びわ湖の恵みを感じる。人のつながりを感じる。豊かな原体験をつくるのは〈出会い〉。人のあたたかさに出会う。自然を大切にしようとする心は、自然の中での体験から芽生える。ゆりかご水田での体験は、遊びでは終わらない、心からの学び、感謝の心が得られる。そして郷土への愛が深まる。こどもたちにふるさとに帰ってきてほしい。ニゴロブナのように。どんな生き方がいいか考える学びを。

会場からの質問・コメント

- 中村大輔先生へ：学校でのびわ湖環境学習の後に、子供たちが自発的に自然にかかわっていくための支援をしているか。それは学校がすべきことなのか。
- 中村大輔：全校環境学習はするが、フォローアップはさほどしていない。学校だけでなく地域と連携して進めていくべき。
- 脇田：地域での人づくりが大切。
- 黒橋：ゆりかご水田事業の現状。平成18年開始。4年で100ヘクタール。その後、伸び悩む。やめたところも。原体験をさせるのも、5年もたつと新鮮味がなくなる。手間もお金もかかる。取り組みの価値を認めてもらわないと続かない。平成28年から流通に注力。直売所を7か所に拡大。関東へのPRも。生協や小売店組合を通じて。
- 脇田：持続可能にする秘訣は？
- 堀：次の〈つながり〉を心がける。お礼をする。販売・営業・PRに注力。
- 脇田：農業は経済行為。にぎわいだけでは続かない。共感の大切さについて
- 大塚：消費者は安全・安心、顔の見える関係。安全は客観的指標になるが、安心は数値では測れない。

- 脇田：ゆりかご水田米の安全・安心をどう担保するか。いろいろな人のつながりが大事。戸田さんへ：漁師は農家とどう連携できる？
- 戸田：美しいものを見て美しいと思う、そう思うあなたの心が美しい（みつを）が心に残っている。ワタカは害魚だけど大目に見てやってほしい。
- 脇田：自分の利益を超えて、相手の苦労に共感する仕掛けが必要では？
- 中村大輔：漁師さんや農家さんの苦労がわかるのは大事。苦労を体験することで、苦労の尊さに気づく。
- 脇田：大学の教育者の立場からは？
- 大久保：県大にもゆりかご水田がある。全面に水草が生えた。フナを入れたから除草剤を入れるのをやめた。このように安心・安全につながるのでは。学生の関心も高まる。
- 脇田：関心を高める要素は多いが、あいだをつなぐデザインが足りないのでは。
- 青田：世界農業遺産。びわ湖の農林水産システムを世界に発信していく。2月に世界への切符をもらう。持続可能な取り組みとして、一緒に進めていきましょう。
- 奥田：私たちのめざす流域ガバナンスは、さまざまな立場の方が対話し、学びあうことが基盤。今日話せなかった方もぜひア

ンケートにご意見をお寄せください。後日ホームページで公開。
ぜひ引き続きご協力をお願いします。

- 中村貴子：滋賀県は産物が豊か。独自の農林水産システムがある。さまざまな分野のかたが集まった今日の話をもっと多くの人に共有していく。共通のことばをもたないと共感は生まれない。脇田さんを中心に、〈共感のことばづくり〉を進めてほしい。顔の見える信頼関係があれば、絶対にムーブメントが起こる。顔の見える関係を、あらゆる機会をつうじて作っていく必要あり。スピード感だいじ。情報の発信、共有。SNSもあるけど、顔を合わせる機会がだいじ。人間、最後は〈食べる〉がだいじ。〈食べる〉を共有の場に。共通体験は共生にだいじ。地球研に場づくりをお願いしたい。
- 脇田：お帰りになったら、地域でお仲間と共有してくださいね。